

済生会横浜市東部病院 看護部長 熊谷雅美

### 13年間の看護管理者経験から、2035への思い

1. 住み慣れた地域のなかで安心して暮らし、地域で看取れる医療を提供し続けたい  
⇒地域において患者情報を一元管理し、かかりつけ医・地域看護ステーションとかかりつけナース(看護ケアの提供と地域調整機能)・かかりつけ薬剤師・地域支援連携病院による地域医療提供システムの構築  
⇒基礎教育課程の見直し(臨床推論能力の充実)(社会関係科目の充実)

2. 普通に子供を産み育て、学ぶ機会が与えられる職場でやりがいを感じながら看護専門職として働ける、そんな未来を創りたい

⇒働き方改革

診療報酬に縛られない看護職の人数と働き方

⇒地域のニーズや働く職員の思いから創る病院組織への転換【職種別から機能別へ】

目的に応じた医療チームを作り、医療従事者のやりがいを支え、最高のパフォーマンスが出せるチーム医療の実施、そしてout comeによる評価制度の創設

高度急性期病院において、今、私が行っていること

- ①看護師の量的確保②看護師の質的充実(NP・専門看護師・認定看護師の育成と活用)
- ③看護師・保健師・社会福祉士・精神保健福祉士資格を有する看護師が退院調整室長を担当
- ④多職種連携の推進(含ロボット)⑤地域とつながったままの入院・介護相談のため、地域の訪問看護ステーションのサテライトを設置 など